

学校教育目標	『学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子』 ○主体的に学ぶ楽しさを味わいながら、考えを伝え合える力を育てます。(知) ○周囲と関わり合いながら自他の良さを実感し、それを大切にできる態度を育てます。(徳) ○基本的な生活習慣を身に付け、心身ともに健康な生活を送る力を育てます。(体) ○学校からまちへと視野を広げ、まちへの愛着を深めながら社会性を発揮できる力を育てます。(公) ○人との関わりを通して自己有用感を高め、皆と幸せに生き抜こうとする力を育てます。(開)				
	創立 72 周年	学校長 内田 宏平	副校長 次田 るみ子	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 6
学校概要	児童生徒数: 537 人		主な関係校: 末吉中学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	末吉中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<言語能力> <自分づくりに関する力>	末吉中学校 末吉小学校 上末吉小学校 下末吉小学校 駒岡小学校	学校・家庭・地域の中で育つ 夢と希望に向かって努力できる子ども ○児童、生徒指導の情報の共有化のための定期的な情報交換 ○「末吉中学校区スタンダード」の運用・検討 ○児童・生徒及び教職員の交流活動並びに地域との交流の活性化 ○義務教育9年間の学びの連続性を軸とした授業参観・授業公開(小中合同授業研究会、人権授業研究会)

中期取組目標	<p>○考えを伝え合う楽しさが味わえる対話的な学び・言語活動を充実させながら、言語能力を高めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年目は、これまで体育科で培った「伝え合う」力を国語科に応用しながら、対話的な授業づくりを推進します。 ・二年目は、自分の考えをもつことの価値とそれを発信することの気持ちよさに気付ける力を育てます。 ・三年目は、言語活動の充実を通して、一人ひとりが主体的に言語能力を伸ばそうとする態度をもてるようにします。 <p>○実社会に準じた学校環境の中で、他者との関わりを通して自己有用感を高めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三年間を通して、友達の役に立った、他者に喜んでもらった、周囲に認めてもらった等の経験を積み重ねられるような意図的な指導を行います。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①国語を軸に研究を進める。重点研のもち方を改善し、ブロックでの取組を基本とする。教師がより主体的に研究に取り組めるようにするとともに、得られた成果を実際の授業場面に取り入れやすくなるよう進める。②児童の力につながる言語活動を取り入れられるよう研究を深める。
担当 重点研(授業)・学校運営部(スキル)	
徳 人権教育	①児童会テーマや学年・学級目標の中に人権的な視点を含ませ、日常の中でも人権教育を推進する意識をもつ。②児童主体で行う活動で人権意識を高めていくとともに、外部講師を招いて啓発的な人権教育も推し進めていく。③フレンズ活動を生かした異学年交流を気付きの機会とする。
担当 特色部	
体 健康教育	①基本的な生活習慣が乱れていたり、生活リズムが整っていなかったりする児童について、スマホやSNSとの付き合い方を保護者とともに考えていく。②コロナ禍によって校庭利用が減少した実態があった。ロング昼休みを週2回設定することにより、外遊びの活性化をねらう。
担当 キャリア安全部	
公開 自分づくり教育(キャリア教育)	①引き続き、外部の教育力を有効活用していく。また、教科分担制や保護者ボランティアの活用も進め、多様な大人と触れ合える環境の中で、教育活動を実践していく。②学校行事等に臨む際、児童が「自己決定」できる機会を意図的につくっていく。「個別最適な自己決定」を推奨する。
担当 キャリア安全部	
いじめへの対応	①保護者アンケートの結果を見ると、決して数値は悪くないものの、他の項目と比べると、肯定的な意見が少なめであった。保護者説明会等を通していじめ認知件数の有効性やチーム対応の意義等をしっかりと伝え、引き続き、チームとして対応できる組織を目指していく。
担当 児童指導委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	①持続可能な働き方について、昨年度上がった課題をPDCAサイクルにのせて改善・実践していく。単年で終わる取組みとせず、常に改善の視点をもつ。チェック・アクションを欠かさずに行っていく。②キャリアステージ上位の教職員がよいロールモデルとなる組織を目指す。
担当 主任会	
特別支援教育	①特別支援教室を児童が安心して利用できるよう、組織的な対応を進める。②児童の自己有用感を育むために、児童自身が自己決定できる機会を意図的に設け、肯定的な評価を重ねる。③学校で児童を不幸にしないことを大前提とし、家庭と連携しながら丁寧な指導を心掛ける。
担当 児童指導委員会	
児童生徒指導	①家庭科、音楽に加えて、外国語も専科教諭による授業を行い、高学年担任が他学年児童の指導や特別支援教室での活動に参画できるようにする。チーム学年経営→チーム学校経営の視点を持ち、全体で協力して児童指導を行う意識をもつ。②学校スタンダードを児童にも浸透させる。
担当 児童指導委員会	
学校の特徴	①児童の発達段階に応じて、フレンズ活動で育てたい資質・能力について、教職員内でしっかりと共有することで、フレンズ活動を持続可能な実践としてとらえていく。②フレンズ活動を通して6年生を育てていくという意識を高め、頑張る6年生の姿を学校全体で認めていけるようにする。
担当 特色部	
情報教育	①校務分掌内に「情報教育委員会」を常設し、端末の活用や情報モラル教育等について系統的かつ継続的に取り組める素地を整える。②保護者アンケートの結果を見ると、他の項目に比べて、肯定的な意見が少なめであった。「情報教育委員会」の取組みについて積極的に発信していく。
担当 情報教育委員会	